

知って安心 医療豆知識

薬の服用やワクチン接種、通院時の疑問。
患者さんの「困り事」について、専門の先生たちに
アドバイスしてもらいました。
「知って安心 医療豆知識」として、Q & A形式で紹介します。

お薬についてのギモン解決

アドバイザー

北海道薬剤師会室蘭支部



薬を処方してもらったとき、決められた量を全て飲まなくても大丈夫ですか。



A

薬には、しっかり服用が必要な病気の素を治療する薬と、医師から調節可と指示されたりする症状を楽にする薬があります。医師・薬剤師から説明を受けて、服用する薬についてしっかり理解することが大切です。



以前処方してもらった薬が余っています。症状が出たときに飲んでも構いませんか。

A

医師から出された薬は、診察したときの症状に合わせて処方される「オーダーメイド」の薬です。同じような症状と思っても、実際にはその症状には適さない場合もあります。飲み残した薬を自己判断で服用することはやめましょう。また処方期限内であっても、適切な場所に保管していないと変質する場合もあります。薬は光・湿気・日光を避けて保管しましょう。



胃の健康と感染予防についてのギモン解決

アドバイザー

室蘭・医療法人社団 秀仁会
野尻内科消化器科クリニック
理事長 野 尻 秀 一 氏



Q 検診で胃ポリープの疑いと指摘されたのですが、治療は必要なのでしょうか。

A 胃ポリープについて、良性の「胃底腺ポリープ」の場合は経過観察でよろしいですが、がんになる恐れのある「腺腫(せんしゅ)」の場合は治療が必要となります。



Q インフルエンザや新型コロナウイルスにかからないために大切なことは？。

A 日常でのマスクのほか、小まめな手洗いや換気、湿度を保つなどの対策は家庭でも大切です。これらに加えてワクチン接種も有効です。高齢者や基礎疾患がある方は特に重症化に対して注意が必要です。普段の生活から感染予防を心がけましょう。



Q ピロリ菌検査は受けた方がいいのでしょうか。

A 受けた方がいいです。ピロリ菌の感染率は10～20歳で2～10%程度、50歳以降で40～60%です。衛生状態が悪い時代に乳幼児期を過ごした世代の感染率が高いといえます。胃がんの原因の90%以上はピロリ菌が原因といわれ、胃潰瘍(かいよう)や十二指腸潰瘍の原因としても知られています。(※2010年代のデータ)

Q 新型コロナウイルスとインフルエンザのワクチン同時接種はできますか。



A 医師の指示があれば可能です。厚生科学審議会にて、新型コロナワクチンとインフルエンザワクチンの同時接種が可能との見解が示されました。ワクチンはそれぞれの疾患に対して症状の重症化を防ぐ効果が期待できます。接種の効果と副反応に関するリスクを正しく理解した上で申し込んでください。



知って安心 医療豆知識

歯の健康についてのギモン解決

アドバイザー

室蘭・日鋼記念病院
副院長・歯科口腔外科主任科長
榊 原 典 幸 氏



虫歯の治療をしていましたが、転勤することになりました。治療はどうしたらよいですか。

A

可能であれば、以前通っていた歯科医院の診療情報提供書（紹介状）が手元にあると望ましいです（新たな通院先が決まっていない場合でも記載は可能です）。また、入手することが難しい場合でも、まずは転居先の新たな歯科医院に相談してください。その際、前医でその歯を治療してもらった経緯や症状、治療の開始時期を伝えてください。大切なのは最後に治療を受けてから転居先で治療を受けるまで、長い期間を開けないことです。受けている治療の内容にもよりますが、最後に治療を受けてから、少なくとも1カ月以内には新たな歯科医院を受診したいところです。



口の中の健康を保ちたいのですが、歯科医院は虫歯の時に行くイメージがあります。

A

痛みなどに症状がなければ、歯科医院を受診しない方が多いと思いますが、症状が出てからの受診は、治療期間も治療費も余計にかかってしまう傾向にあります。かかりつけの歯科医院をつくって、定期的に通

院するのが最良です。また、歯科医院への受診は、虫歯の治療だけではなく、口腔の健康を保つためにも必要です。口腔がんなどの早期発見にも役立ちます。近年、口腔の健康は全身の健康と深く関わっていることが分かってきています。最低でも1年に1度は受診するように心がけましょう。



知って安心 医療豆知識

おくすり手帳についてのお困り解決

アドバイザー

北海道薬剤師会室蘭支部



複数の病院にかかっています。薬の飲み合わせが心配ですが、高齢のため、どの薬がどの病院で処方されたかを伝える自信がありません。

A

「おくすり手帳」はお持ちですか。「おくすり手帳」は、いつ、どこで、どんな薬を処方してもらったかを記録しておく手帳のことです。医療機関を受診する際、病院・薬局に「お薬手帳」を提出することで薬の重複や相互作用などを防げます。そのため病院や薬局ごとにせず、一冊にまとめて使いましょう。お薬手帳は薬局で配布していますので、薬剤師に相談してください。

